

国営備北丘陵公園

都市公園事業の事後評価チェックリスト

| | | | | | | | | |
|--|--|--------------|---------|----------|---------|---------|---------|-------|
| 公園名 | 国営備北丘陵公園 | 種別 | イ号公園 | 全体面積 | 338.8ha | | | |
| 事業の概要 国営備北丘陵公園は、中国地方のほぼ中央である広島県庄原市に位置し、全体面積338.8haの中国地方で唯一の国営公園である。本公園は、平成7年4月に中入口センターエリア・ひばの里を開園して以降順次追加開園を行い、平成24年4月のいこいの森の開園により全園開園となった | | | | | | | | |
| 事業採択年度 | 昭和57年度 | 都市計画決定（変更）年度 | 昭和60年度 | | | | | |
| 用地着手年度 | 昭和59年度 | 工事着手年度 | 昭和62年度 | 事業終了年度 | 平成24年度 | | | |
| 事前評価実施年 | | 再評価実施年度 | 平成20年度 | 事後評価実施年度 | 平成28年度 | | | |
| 費用対効果分析算定基礎となった要因の変化 | | | 事前評価 | | 再評価 | | | |
| | 公園の利用圏域内の市街化の状況、人口の推移、年齢構成の変化等公園の整備効果に重大な影響を与える事情の変化 | | 有 | 無 | 有 | 無 | | |
| | 費用対効果分析結果に影響を与える公園整備内容の大幅な変更、工事単価の著しい変化等要因の変化 | | 有 | 無 | 有 | 無 | | |
| | 費用対効果 | 総便益（B） | | | | 1,679億円 | 1,912億円 | |
| | | 費用対効果 | 便益の主な根拠 | | | | 80km | 80km |
| | | | 誘致距離 | | | | +2時間圏 | +2時間圏 |
| | | | 誘致人口 | | | | 566万人 | 556万人 |
| 総費用（C） | | | | 1,215億円 | 1,644億円 | | | |
| B/C | | | | 1.38 | 1.16 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 中国地方全域で高速道路整備が進み、周辺市区町村からの旅行費用が減少した。 未開園であった「いこいの森」エリアにおいて、施設整備を最小限にとどめ、整備コストの縮減（総事業費640億円から614億円）を図った。 | | | | | | | | |
| 事業効果の発現状況 | (ア) 防災に関する機能 ・園内に災害用臨時ヘリポートを設置し、地域と一体となった防災訓練を定期的実施することにより、地域住民（東自治振興区）の方の安全確保を推進している。 ・平成24年10月に庄原市地域防災計画において指定緊急避難場所に位置付けられた。 (イ) 観光振興等地域活性化に関する機能 ・地形、立地を活かしたイルミネーションにより、低調な冬季の地域観光を促進している。 ・本公園の管理運営においては、年間延べ約1,800人の臨時雇用を採用。地域に継続的な雇用機会を提供している。 (ウ) 都市環境の改善、自然との共生に関する価値 ・国兼池におけるカヌー体験や、森に囲まれたオートキャンプ場、ボランティアによる森の楽校の実施など、豊かな自然環境を活かした公園づくりを展開し、多様なレクリエーションを提供している。 ・県立大学と連携した貴重種の保全・再生や国蝶オオムラサキの保護・繁殖など、多様な動植物が生息・生育できるような自然環境の保全、復原を継続的に実施している。 (エ) 歴史や地域文化の伝承に関する価値 ・地域の伝統や文化を体験してもらうプログラムの展開や昔の生活を再現した空間を提供することにより、地域の歴史・文化の伝承に貢献している。 | | | | | | | |
| 事業実施による環境の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 整備に伴う環境変化があったものの、水辺をはじめとする特徴的な自然環境は残されており、その影響は小さい。 公園事業により、鳥類を始めとした動物類が安心して生息できる環境が創出された。 希少植物等については、整備と並行して、保全、再生の取り組みが適切に行われている。 | | | | | | | |
| 社会経済情勢の変化 | (ア) 利用圏域内の人口の推移等 ・H20年再評価以降、誘致圏内の人口が減少した。 (イ) 関連する他事業の進捗状況等 ・H20年再評価以降、周辺的高速道路等の整備が進んだ。 | | | | | | | |

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>今後の事後評価の必要性</p> | <p>本公園では、園内の豊かな自然環境の保全や活用が図られており、中国地方の歴史、伝統文化の継承にも寄与しているほか、新たなレクリエーションの導入や公園モニター制度の導入による利用者意見の収集など利用者の幅広いニーズに対応している。このことから、本公園の基本テーマ・基本理念に沿った効果が発現していることが認められ、今後の事後評価の必要性はない。</p> |
| <p>改善措置の必要性</p> | <p>豊かな自然環境を活かし、大規模な花修景や多様な「遊びの場」を創出し、中国地方全域に及ぶ広域なレクリエーションニーズに対応している。 希少な環境資源や地域固有の文化を、地域と連携を図りつつ、適切に保全し、その活用を図っている。 地域と連携したイベントの展開や地域の防災拠点としての役割を担うなど、地域に欠かせない存在となっている。 今後も適切な管理運営により、引き続き利用者満足度の向上を進めることから改善措置の必要性はない。</p> |
| <p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> | <p>同種事業の計画・調査のあり方について、見直しの必要とする事項はない。 また、事業評価手法の見直しの必要性はない。</p> |

こくえいびほくきゆうりようこうえん
国营備北丘陵公園事業



平成29年1月25日

国土交通省 三次河川国道事務所

1. 国営公園の概要

1) 国営公園とは

国営公園は、

- イ) 一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する公園又は緑地
- ロ) 国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する公園又は緑地

に大別され、全国に17ヶ所が整備されている。

2) 国営公園の有する意義

- ① 広域化・多様化するレクリエーション需要への対応
- ② 環境の保全と創出
- ③ 歴史・文化の保存と継承
- ④ 活気ある地域づくりと新しい発展の拠点
- ⑤ 時代の要請に応えた新しい試みへの対応



※公園の下の()内は開園年月です。
(平成二十八年三月現在)

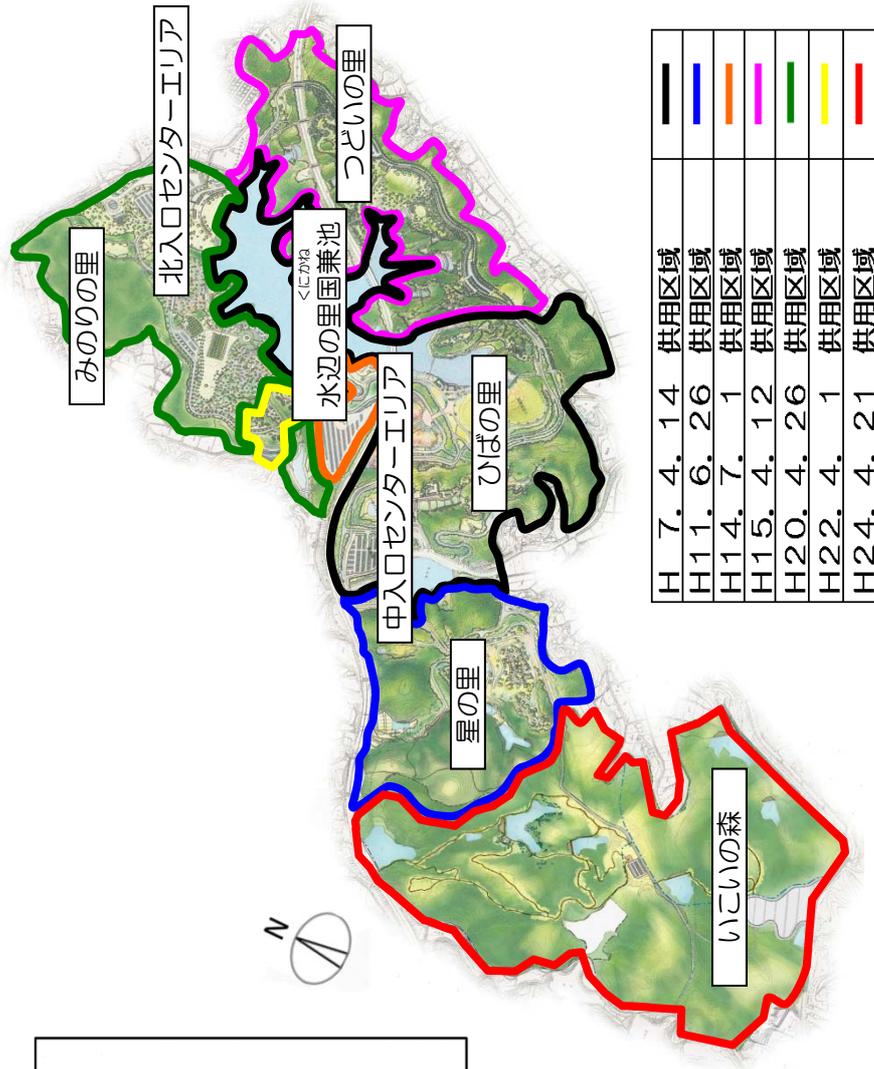
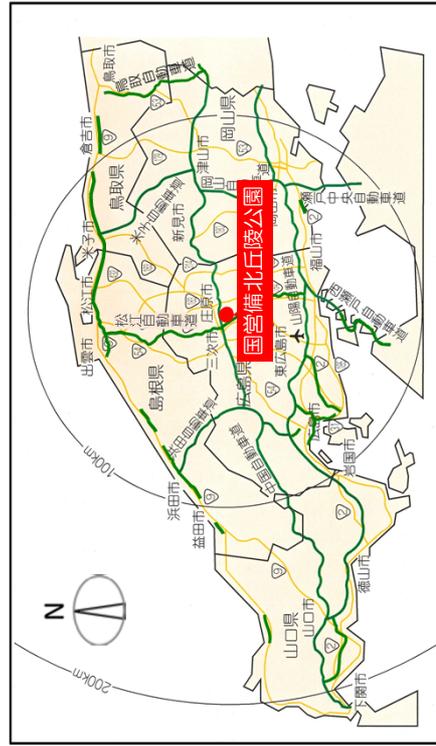
● 1号公園 (12ヶ所)
● 2号公園 (5ヶ所)

2. 事業の概要

(1) 公園の概要

○中国地方のほぼ中央、広島県庄原市に位置し、**中国地方唯一の国営公園**である。

○昭和57年度から整備に着手し、平成7年4月「中入ロセンターエリア・ひばの里」を開園して以来、順次開園区域を拡げ、平成24年4月「いこいの森」の開園により、全体面積338.8haの全園開園となった。



2. 事業の概要

(2) 本公園における取り組み

○公園整備の方針に基づき、年間を通じ四季に応じた様々なイベントや歴史・文化を伝承するための体験プログラムを開催すると共に、防災の観点から指定緊急避難場所へ位置付けるなど中国地方にとって必要不可欠な施設である。

【公園整備の方針】

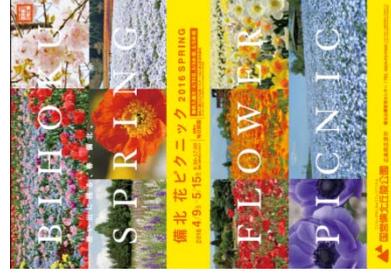
- ・ 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園
- ・ 中国地方の古い文化の継承や新しい文化をはぐむことのできる公園
- ・ 四季にわたる多彩なレクリエーションに対応できる公園
- ・ 中国地方の全域から利用できる公園
- ・ 地域とのふれあいのできる公園

□歴史・文化を伝承するための体験プログラム



| 行事名称 | 参加者数 (人) | 回数 (回) |
|------------------|----------|--------|
| わら細工体験 | 4,030 | 338 |
| 昔遊び体験 | 2,570 | 1 |
| 木と書らしの雑貨づくり | 2,258 | 93 |
| 手打ちそばづくり体験 | 1,769 | 73 |
| 茶席 | 1,499 | 19 |
| 竹工作の体験 | 1,005 | 25 |
| 野菜の丸かじり体験 | 857 | 25 |
| 夏のお菓子づくり体験 | 528 | 10 |
| 秋のお菓子づくり体験 | 530 | 7 |
| 古代たら鉄づくり体験 (ふいで) | 69 | 2 |

□年間を通じ四季に応じた様々なイベントの展開



冬期イルミネーションは、人気ランキング **中国地方で1位**、**全国3位**と高い評価

庄原市 月別観光客数 (H27年度)



※その他、田植え体験など様々なイベントを開催

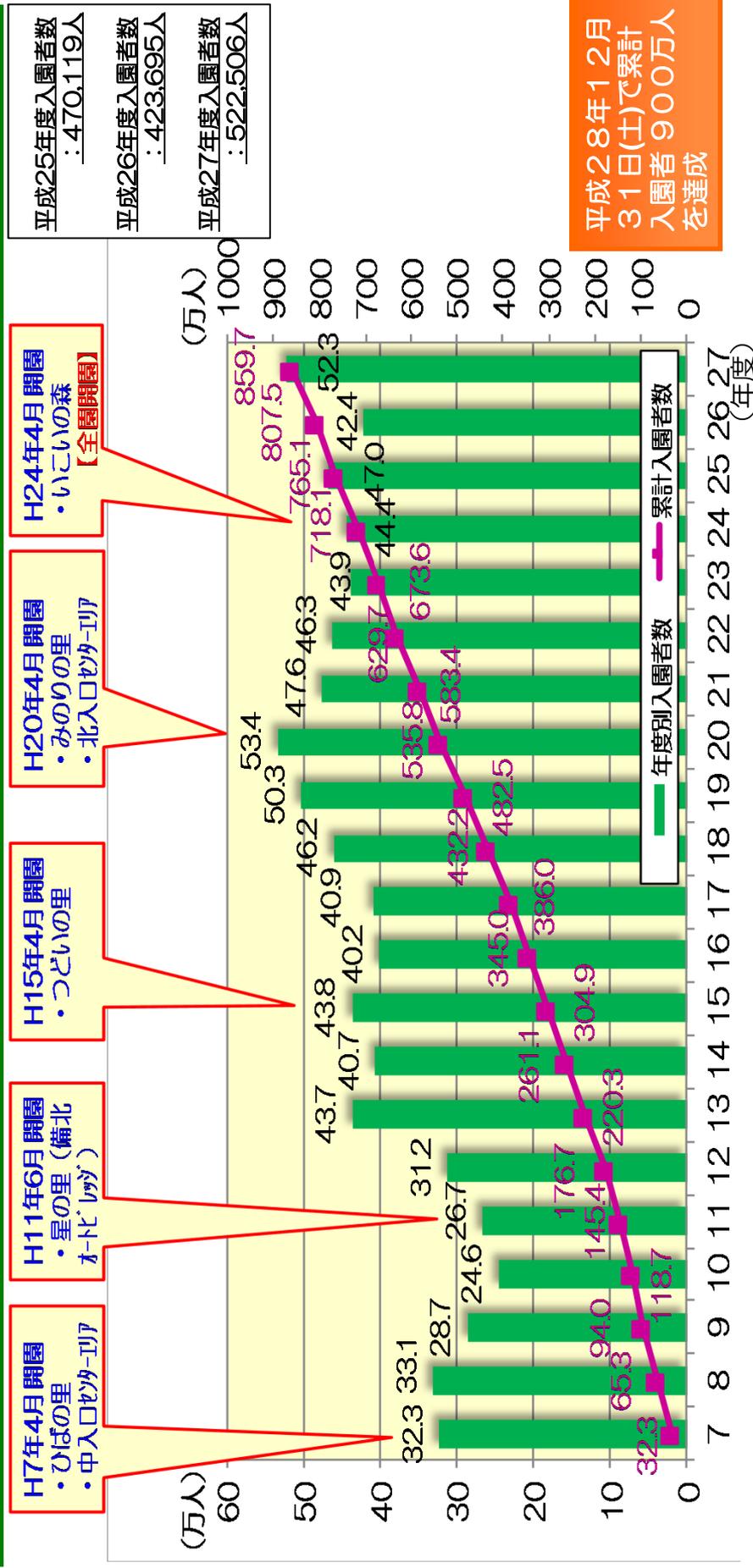
イルミネーションの中心期間である12月は**庄原市内の観光客数の約4割**を占める。

※出典：「H27年広島県観光客数の動向」(広島県)

2. 事業の概要 (3) 利用者等の状況①

○平成7年度の開園当時は年間約32万人であったが、追加開園やニーズに対応した各種イベントの開催等により、平成27年度は年間約52万人の方に利用していただき、平成28年末で累計入園者数が約900万人に達し多くの人に利用されている。

国営備北丘陵公園入園者数の推移



2. 事業の概要

(3) 利用者等の状況②

○直線距離50km圏域内の人口に対する利用者数の割合は、他の国営公園と比較しても、**備北丘陵公園は50km圏内の人口が最も少ないにも関わらず、利用者数の対人口比が最も高い。**

■50km圏域内人口に対する利用者数の割合

単位：人

| | 公園名 | 所在地 | 50km圏内人口 | 利用者数 | 対人口比 |
|----|------------|-------------------------------------|------------|-----------|-------|
| 1 | 滝野すずらん丘陵公園 | 北海道札幌市 | 2,813,369 | 542,528 | 0.193 |
| 2 | みちのく杜の湖畔公園 | 宮城県川崎町 | 2,716,743 | 765,404 | 0.282 |
| 3 | 常陸海浜公園 | 茨城県ひたちなか市 | 1,488,880 | 1,767,731 | 1.187 |
| 4 | アルプスあづみの公園 | 【掘金・穂高地区】長野県安曇野市 【大町・松川地区】長野県大町市 | 1,450,865 | 374,083 | 0.258 |
| 5 | 越後丘陵公園 | 新潟県長岡市 | 845,352 | 541,903 | 0.641 |
| 6 | 木曾三川公園 | 愛知県、岐阜県、三重県 | 10,115,979 | 9,892,050 | 0.978 |
| 7 | 淀川河川公園 | 大阪府、京都府 | 17,432,828 | 4,115,069 | 0.236 |
| 8 | 明石海峡公園 | 兵庫県淡路市 | 10,555,072 | 537,746 | 0.051 |
| 9 | 備北丘陵公園 | 広島県庄原市 | 312,192 | 423,695 | 1.357 |
| 10 | 讃岐まんのう公園 | 香川県まんのう町 | 1,841,825 | 500,118 | 0.272 |
| 11 | 海の中道海浜公園 | 福岡県福岡市 | 4,076,909 | 2,058,610 | 0.505 |

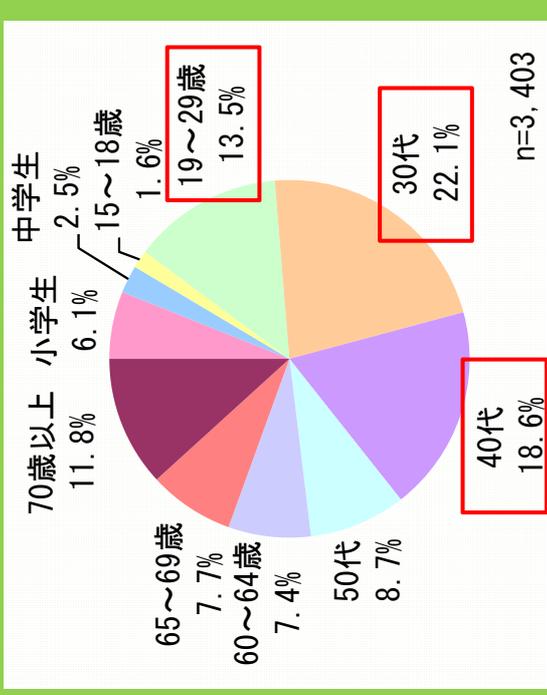
※平成26年度利用者数及び人口

※上記表は、各イ号公園の割合を示す（但し、東京臨海広域防災公園除く）

2. 事業の概要

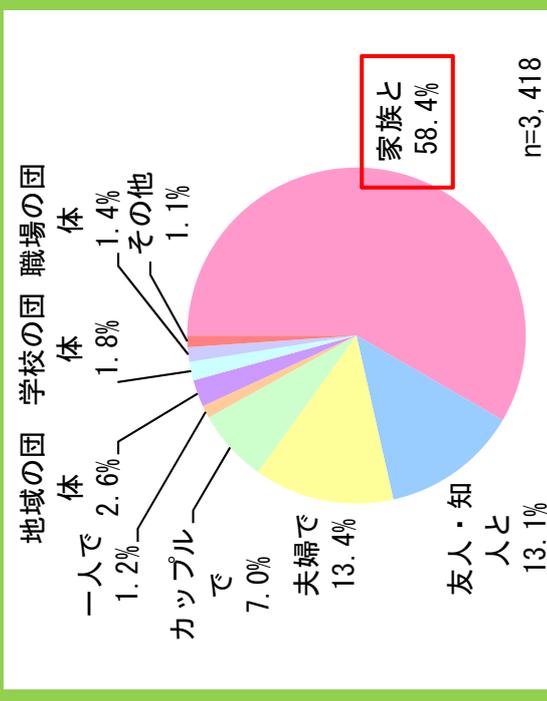
(4) 来園者の特性

来園者の年齢層



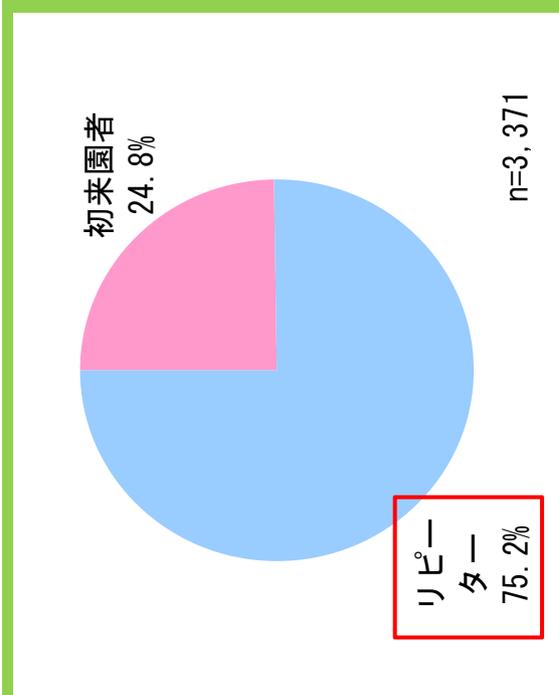
H27 利用実態調査結果

同行者



H27 利用実態調査結果

来園者のリピーター割合



H27 利用実態調査結果

＜利用実態調査からみえる来園者の特性＞

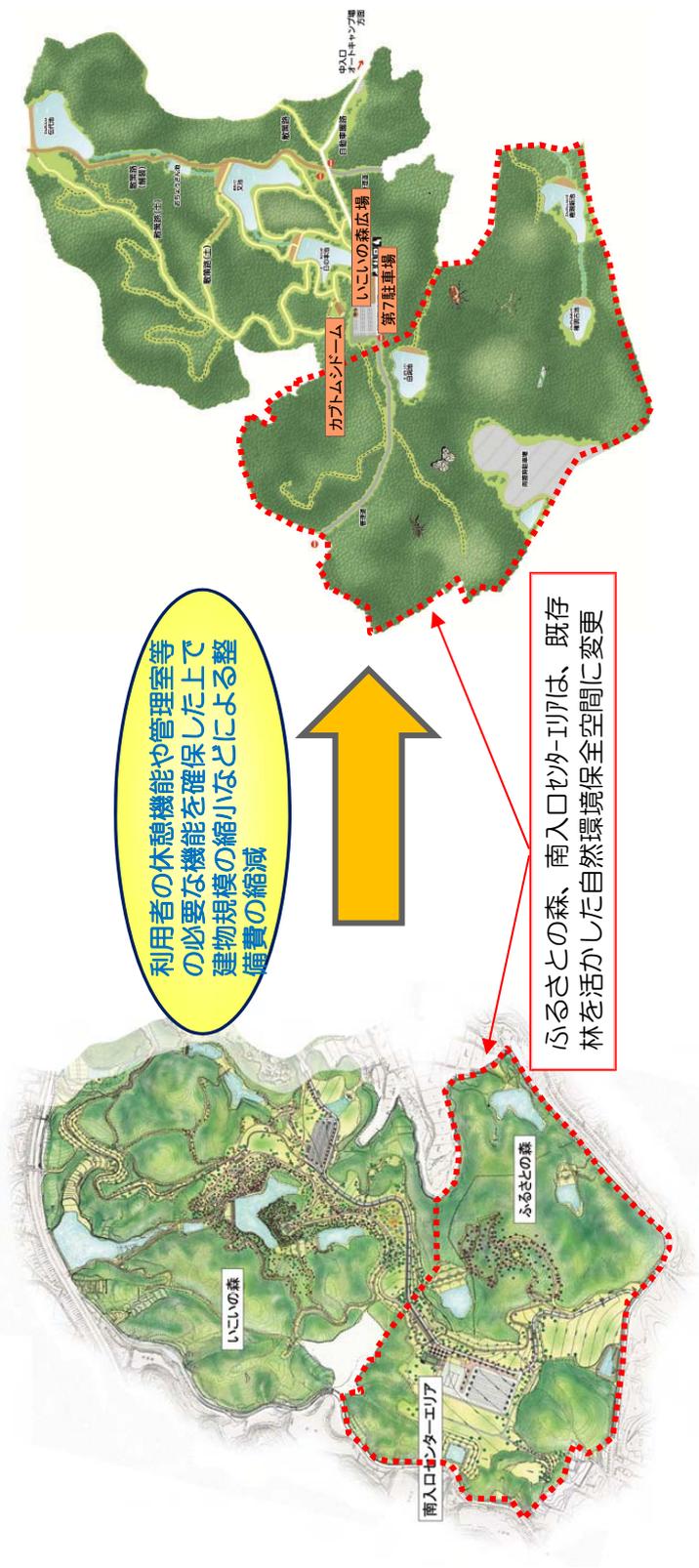
- 来園者の年齢層は、20～40代が半数以上を占めているが、概ねまんべんなく幅広い世代の利用がある。
- 来園者の6割近くが家族連れである。
- 全体の75%がリピーターである。

2. 事業の概要

(5) 「いこいの森」エリアにおける整備コスト縮減

○「いこいの森」エリアは、必要な機能を確保した上で最小限の施設整備に留めることにより、総事業費を640億円から614億円に削減するなど**整備コストの縮減**に努めた。

いこいの森 整備概要



※出典：H20年度第3回
「中国地方整備局事業
評価監視委員会」資料
使用図

総事業費：640億円

※公園全体の事業費

※出典：H24.2全面
開園時記者発表
料使用図

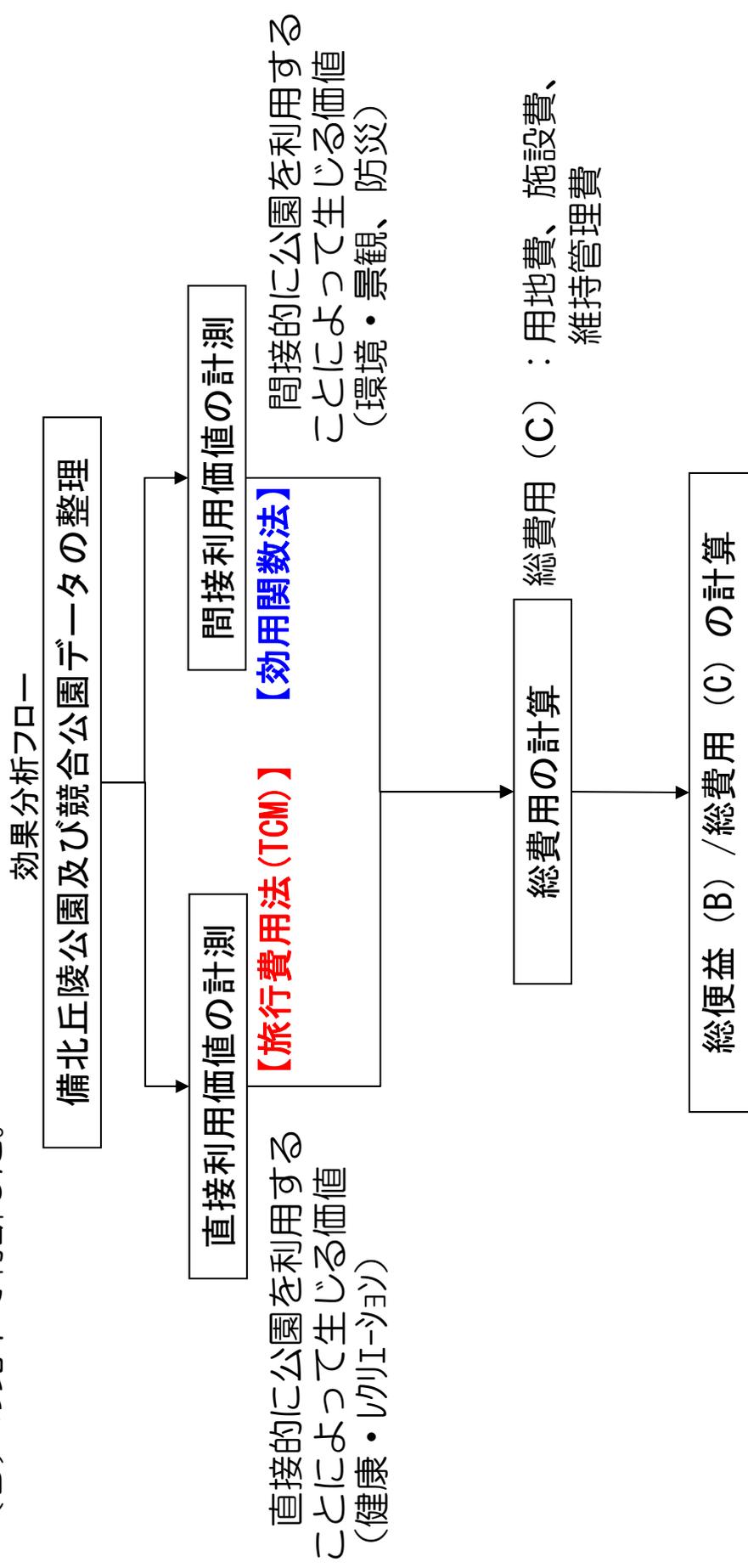
総事業費：614億円

※公園全体の事業費

3. 費用対効果分析 (1) 費用対効果の分析の考え方

○本省 都市局 公園緑地・景観課監修「改訂第3版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に基づき、公園利用圏域の人口、公共交通網等の整備などを含めた交通状況、公園の整備費用など様々な要因を加味し費用対効果分析を実施した。

総便益 (B) を直接利用価値、間接利用価値の2項目で算出し、総費用 (C) に対する総便益 (B) の比率で判断した。



計測期間：事業開始年 (1982年) ~部分供用開始後50年 (2044年)

3. 費用対効果分析 (2) 直接利用価値の算出

○直接利用価値は、下記の需要推計モデルを用いて、備北丘陵公園の需要から価値を算出

$$D_{ijk} = D_{ik} \times P_{ijk}$$

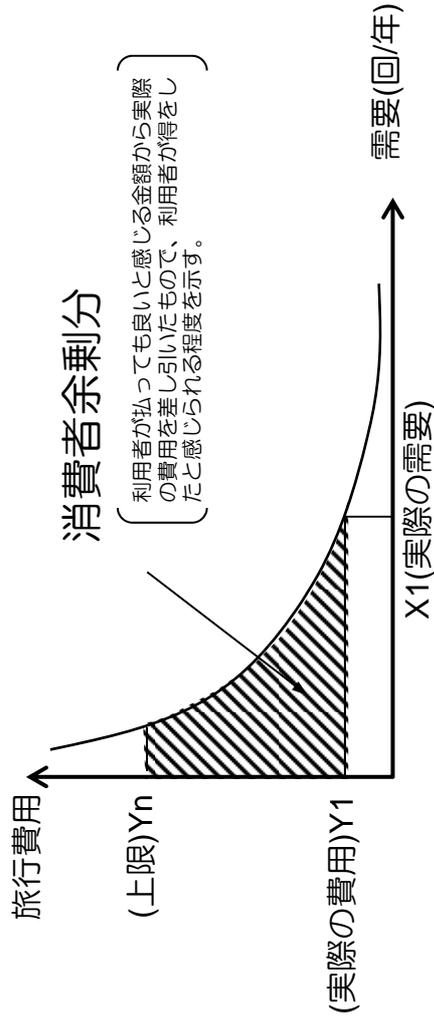
市町村区分 (i) の、年齢区分 (k) における検討対象公園 (j) の需要 (回/年)

市町村区分 (i) の、年齢区分 (k) における年間公園需要 (回/年)

市町村単位 (i) の、年齢区分 (k) における検討対象公園 (j) を利用する選択率

公園 (j) を備北丘陵公園とし、各年齢区分、及び、各市町村区分ごとに備北丘陵公園の需要を推計

本推計モデルは、旅行費用法※により算出しており、以下の需要曲線から消費者余剰分を計測。



各年齢区分、及び、各市町村区分の消費者余剰分を合計し、便益を算出。

※「公園利用者は、公園までの移動費用をかけたままでも公園を利用する価値があると認めている」という前提のもとで、公園までの移動費用(料金、所要時間)を利用して、公園整備の価値を貨幣価値で評価。

3. 費用対効果分析 (3) 間接利用価値の算出

○間接利用価値は、下記の2項目について、備北丘陵公園を整備したことに伴う効用価値から算出

① 環境の維持・改善、景観の向上に役立つ価値（以下「環境」）

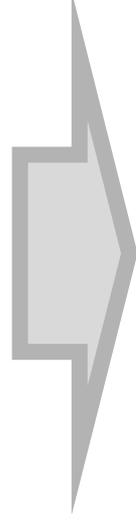
「環境」の効用価値 $=A1 \times \sqrt{\text{（緑地面積）}} + A2 \times \text{（各市町村から備北丘陵公園までの距離）}^2$

② 防災に役立つ価値（以下「防災」）

「防災」の効用価値 $=A3 \times \sqrt{\text{（広場面積）}} + A4 \times \text{（各市町村から備北丘陵公園までの距離）}^2$
 $\times A5$ （防災拠点機能の有無（あり=1、なし=0））

○環境・防災の効用価値から、以下の算定式により、備北丘陵公園を整備した場合の便益を算出

整備した場合の満足度 $= \ln(\exp(\text{備北丘陵公園の効用価値}) + (\text{整備しなかった場合の満足度}))$
整備しなかった場合の満足度 $= \ln(1 + \exp(\text{競合公園1の効用価値}) + \exp(\text{競合公園2の効用価値}) \dots)$



便益 $= (\text{（整備した場合の満足度）} - \text{（整備しなかった場合の満足度）}) / A6$

※改訂第3版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアルより

・A1からA6は、パラメータ値を示す。

A1 : 0.1134198、A2 : -0.0011004、A3 : 0.0526422
A4 : -0.0007343、A5 : 0.4713709、
A6 : 0.0007764（環境）、0.0005315（防災）

3. 費用対効果分析 (4) 投資効果の分析結果

以上の総便益、総費用から本公園の費用便益比 (B/C) は1.16であり、本公園の整備に
対して費用対効果が得られることを確認した。

| | 前回評価 (H20再評価) | 今回評価 (H28事後評価) | 前回評価時から主な増減要因 |
|-------------|------------------|-------------------|------------------|
| 事業費 | 640 | 614 | 「いこいの森」におけるコスト縮減 |
| 整備期間 | 昭和57年から平成27年 | 昭和57年から平成24年 | |
| 基準年 | 平成20年 | 平成28年 | |
| 便益※ (億円) | 直接利用価値 | 1,441 | 基準年差による増 |
| | 間接利用価値 | 237 | 基準年差による増 |
| | 総便益 (B) | 1,679 | |
| 費用※ (億円) | 用地費 | 299 | 基準年差による増 |
| | 施設費 | 686 | 基準年差による増 |
| | 維持管理費 | 230 | 基準年差による増 |
| | 総費用 (C) | 1,215 | |
| 費用便益 (B/C) | 1.38 | 1.16 | |

※便益、費用は、現在価値化した値。端数処理により、合計額は一致しない。

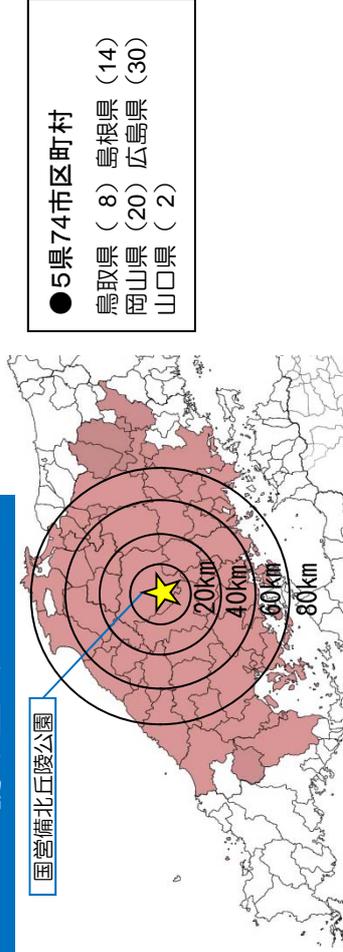
4. 再評価時点から費用便益 (B/C) の変化要因と分析①

○費用対効果分析における公園を利用する人が居住する地域（以下「誘致圏域」）は、H20再評価時と同じく多くの利用者が見込まれている**80km圏をカバーする2時間圏域の市町村**としましたが、誘致圏内人口は**0.98倍に減少**しました。

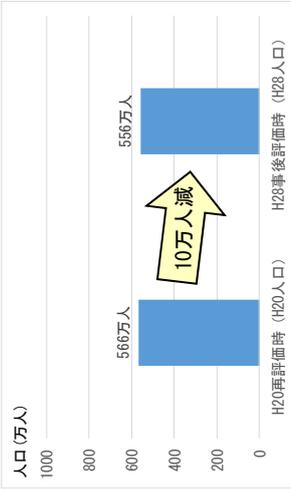
○また、中国地方全域で高速道路等の整備が進み、**周辺市区町村からの移動時間や費用が変化**したことに伴い、**旅行費用法で算出する便益が減少**しました。

誘致圏域の設定

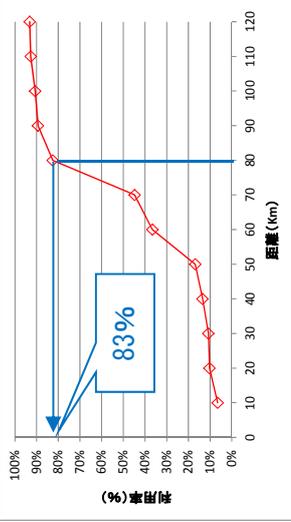
誘致圏域



人口の変化

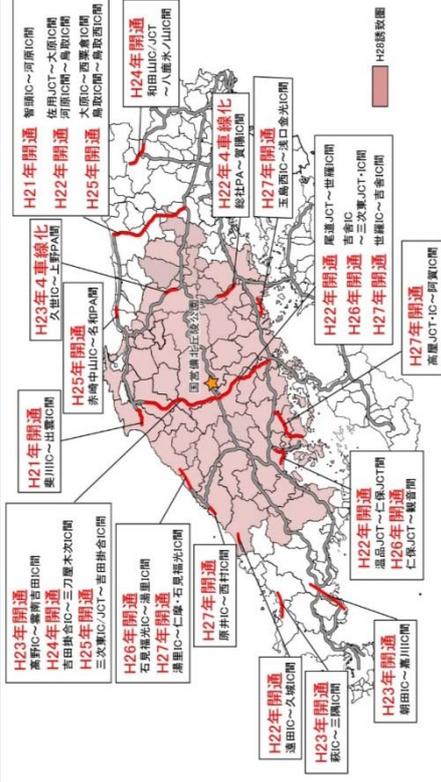


距離と利用率 (H25~H27)

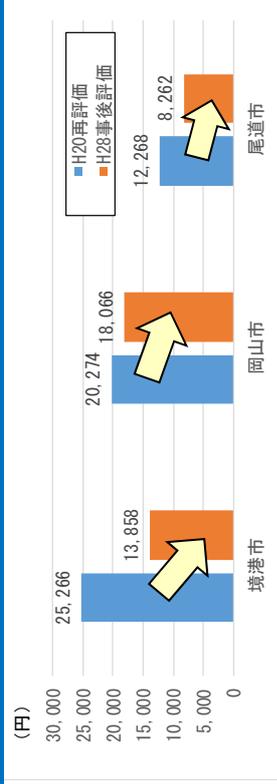


交通状況の変化

再評価後 (H21年度以降) の高速道路の整備状況



誘致圏内都市からの旅行費用の変化

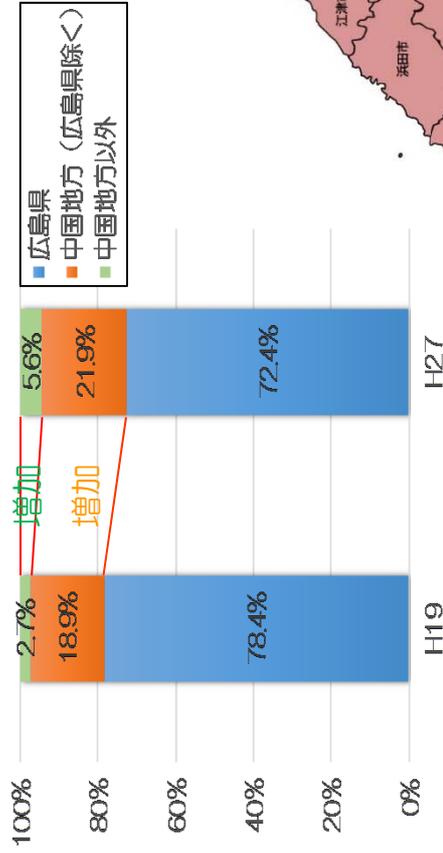


※国勢調査 (総務省統計局)、日本の将来推計人口 (H25.3) (国立社会保障・人口問題研究所) より

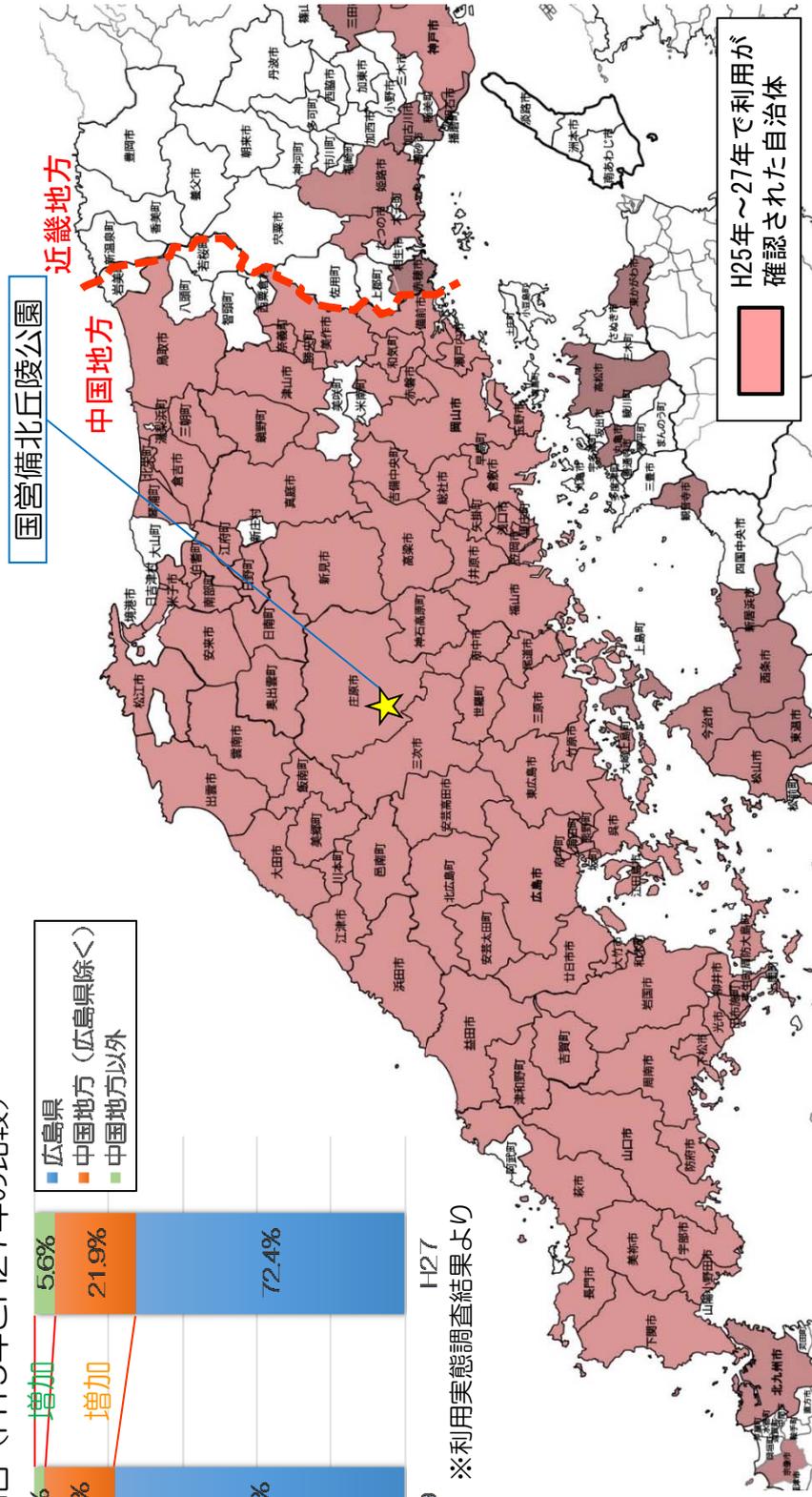
4. 再評価時点から費用便益 (B/C) の変化要因と分析① (参考)

○しかし、高速道路整備に伴う移動時間・費用の変化等により、前回評価時と比較して、**神戸市、北九州市、四国などからの利用者も見られ、実際の利用者圏域は拡大し、安定的な公園利用者の確保が図られた。**

来園者の居住地割合 (H19年とH27年の比較)



※利用実態調査結果より



来園者の居住地 (H25年～H27年)

※利用実態調査結果より

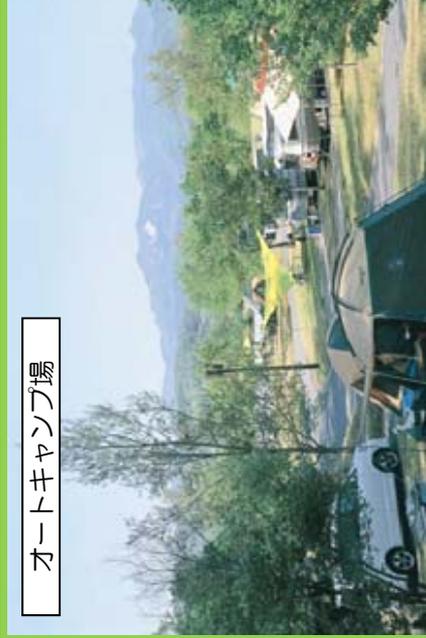
5. 事業効果の発現状況

(1) 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園①

① 自然環境を活用した公園づくり

○国兼池におけるカヌー体験や、森に囲まれたオートキャンプ場、ボランティアによる森の学校の実施など、豊かな自然環境を活かした公園づくりを展開し、**多様なレクリエーションを提供**している。

オートキャンプ場



H27年度 オートキャンプ場年間利用者数 20,312人

国兼池でのカヌー



H27年度 国兼池の年間利用者数 2,238人

カブトムシドーム
(いこいの森)



H27年度 いこいの森入園者数 22,804人

森の楽校



H27年度 活動回数10回 延べ参加人数115人

5. 事業効果の発現状況

(1) 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園②

②絶滅危惧種、希少種等の保全・繁殖、自然再生の取り組み

○県立大学と連携した貴重種の保全・再生や国蝶オオムラサキの保護・繁殖など、**多様な動植物が生息・生育できるような自然環境の保全、復原**を継続的に実施している。

県立広島大学と連携した貴重種ヒゴタイの保全・再生



ヒゴタイ

環境省RDB：絶滅危惧Ⅱ類
広島県RDB：絶滅危惧Ⅰ類



県立広島大学生による植栽

国蝶オオムラサキの保護・繁殖の取り組み



オオムラサキ

H27年にカブトムシドームで成虫したオオムラサキ

環境省RDB：準絶滅危惧 (NT)
広島県RDB：準絶滅危惧 (NT)

○その他

- ・尾道松江道整備時に影響を受けるエヒメヤメの保全
- ・個体数の減少が進むモリアオガエルの保護展示
- ・里山環境の象徴であるササユリ群生地の復原
- ・アサギマダラの放蝶及び生息環境創出のためのフジバカマの生育

5. 事業効果の発現状況

(2) 中国地方の古い文化の継承や、新しい文化をはぐくむことのできる公園

①歴史や地域文化の伝承

○地域の伝統や文化を体験してもらおうプログラムの展開や昔の生活を再現した空間を提供することにより、地域の歴史・文化の伝承に貢献している。

●体験プログラム

日本古来の製鉄法である「ただら製鉄」や、地域の年中行事を一般参加者にも楽しんでもらいながら、文化の保存・伝承を行っている。

《主なプログラム》



わら細工体験



鉄づくり体験

| 行事名称 | 参加者数 (人) | 回数 (回) |
|---|-------------|-----------|
| わら細工体験 | 4,030 | 338 |
| 昔遊び体験 | 2,570 | 1 |
| 木と暮らしの雑貨づくり | 2,258 | 93 |
| 手打ちそばづくり体験 | 1,769 | 73 |
| 茶席 | 1,499 | 19 |
| 竹工作の体験 | 1,005 | 25 |
| 野菜の丸かじり体験 | 857 | 25 |
| 夏のお菓子づくり体験 | 528 | 10 |
| 秋のお菓子づくり体験 | 530 | 7 |
| 古代たたら鉄づくり体験（ふいご） | 69 | 2 |
| その他、 田植え体験、稲刈り体験、五色餅つき、 おはぎづくり体験、昔遊びづくり体験 ペーパーナイフづくり体験、藍染め体験 等 | | |

※平成27年度実績

●伝統行事

季節の風物詩を体験するための伝統行事を年間を通して開催。



神樂の上演

●農村景観、暮らしぶりの再現

「ひばの里」では100年前の農村景観や農作業を再現。



さとやま屋敷

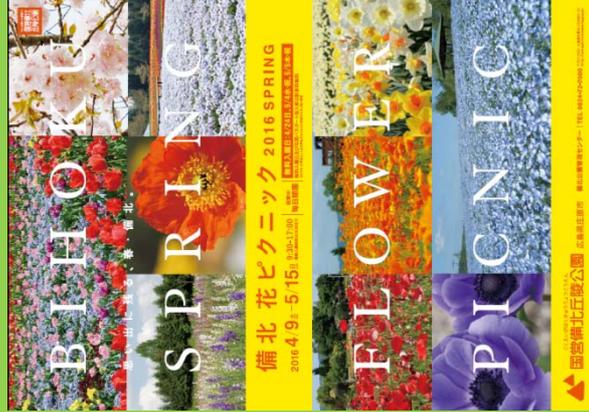
5. 事業効果の発現状況

(3) 四季にわたる多彩なレクリエーションに対応できる公園

①年間を通じて四季に応じたイベントの展開

○冬のイルミネーション、秋の花火と音楽の祭典などの開園時間延長による利用促進策の展開をはじめ、**年間を通じて来園者の多様なニーズに対応し四季に応じた様々なイベントを展開**している。

備北花ピクニック（春まつり）



H27年度開催期間：37日間
4月9日～5月15日
入園者数：
105,504人（H27年度）

夏まつり



H27年度開催期間：45日間
7月18日～8月31日
入園者数：
51,989人（H27年度）

秋まつり



H27年度開催期間：37日間
9月12日～10月18日
入園者数：
109,460人（H27年度）

ウィンターイルミネーション



H27年度開催期間：56日間
11月14日～1月11日
入園者数：
173,427人（H27年度）

※H27年度は過去最多入園者数

5. 事業効果の発現状況 (4) 地域とのふれあいのできる公園

① 地域文化の継承や自然保全等を目的としたボランティア活動の展開

○本公園では、**周辺地域住民のボランティア活動**による地域文化を継承するイベントや園内ガイド等を展開することによって、**来園者と地域とのふれあいの場を提供**している。

● ボランティア活動

備北地方の文化の継承、豊かな自然の保全・活用のため、地域や市民、企業との連携・協働を図っている。

| ボランティア団体 | カテゴリ | 登録人数 | 活動状況 | 活動概要 | ボランティア団体 | カテゴリ | 登録人数 | 活動状況 | 活動概要 |
|-----------|----------|------|------|---|--------------|------|------|------|-------------------------------|
| しょうばら花会議 | 公園運営サポート | 58人 | 毎月 | ・公園内花修景の手入れをサポート。 | さとやま古代たたら倶楽部 | 文化継承 | 8人 | 年1回 | ・中国山地の文化の象徴『古代たたら鉄づくり』の継承。 |
| アナノコ会 | 公園運営サポート | 5人 | 毎月 | ・さとやま屋敷や農家群の庭園の手入れをサポート。 | 炭焼きクラブ | 文化継承 | 3人 | 毎週 | ・炭焼き小屋を拠点に、竹炭づくりや竹酢液づくりを実施。 |
| キャンプリーダー | 公園運営サポート | 14人 | 年数回 | ・野外活動やキャンプ場運営で必要な知識・技術・指導力をもって、アウトドア活動のサポート。 | 遊びの楽校ボランティア | 文化継承 | 8人 | 毎月 | ・ひばの里を中心に、昔ながらの遊び(手づくり体験)を実施。 |
| 森の楽校 | 環境保全 | 71人 | 毎月 | ・「いこいの森」の手入れ。 | 園内ガイド | 地域活動 | 11人 | 年数回 | ・園内の花や施設、歴史文化に関する来園者へのガイド。 |
| グリーンレンジャー | 環境保全 | 20人 | 毎月 | ・動植物の保護。 ・自然や環境に関する講座。 ・イベント時に動植物の案内をする自然ガイド。 | | | | | |

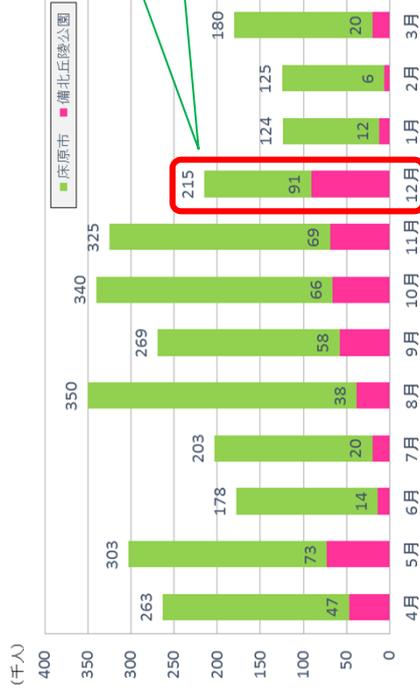
※平成28年3月31日時点

5. 事業の効果の発現状況 (5) 観光振興等地域活性化に関する効果

① 冬季の地域観光の促進

○ 地形・立地を活かしたイルミネーションにより、低調な冬季の地域観光を促進している。

庄原市 月別観光客数 (H27年度)



イルミネーションの中心期間である12月は庄原市内の観光客数の約4割を占める。

※出典：「H27年広島県観光客数の動向」(広島県)



イルミネーションの人気ランキングでは中国地方で1位、全国でも3位と高い評価を得ている。

※Yahoo! イルミネーション人気ランキング2015 より

② 雇用創出効果

○ 本公園の管理運営においては、年間延べ約1,800人の臨時雇用を採用。地域に継続的な雇用機会を提供している。

| 園内臨時雇用者数 (H26年度) | | 雇用者数 (人) |
|------------------|------------------------------------|----------|
| 区分 | 期間 | |
| 通常時 | 4/1~3/31 ※下記イベント期間除く | 499 |
| イベント時 | 春まつり 4/5~5/11 | 239 |
| | 夏まつり 7/19~8/31 | 412 |
| | 秋まつり 9/13~10/19 | 369 |
| イルミネーション | 11/15~2/15 ※ウイークエンドイルミネーション期間含む | 298 |
| 合計 | | 1,817 |

特にイベント開催を通じて多くの雇用機会を提供

※雇用者数は期間中の述べ人数

5. 事業効果の発現状況 (6) 防災に関する効果

① 避難地・防災拠点等としての利用

- 園内に**災害用臨時ヘリポート**を設置し、**地域と一体となった防災訓練を定期的に実施**することにより、地域住民（東自治振興区）の方の安全確保を推進している。
- 平成24年10月に**庄原市と協定を結び、園内の一部が指定緊急避難場所に指定された。**

本公園のオープンスペース及び主な災害対策施設

| 名称 | 規模等 |
|------------|---------|
| オープンスペース面積 | 約27.6ha |
| 指定緊急避難場所 | 約8.0ha |
| 災害用臨時ヘリポート | 1箇所 |



防災ヘリの着陸



怪我人の応急処置

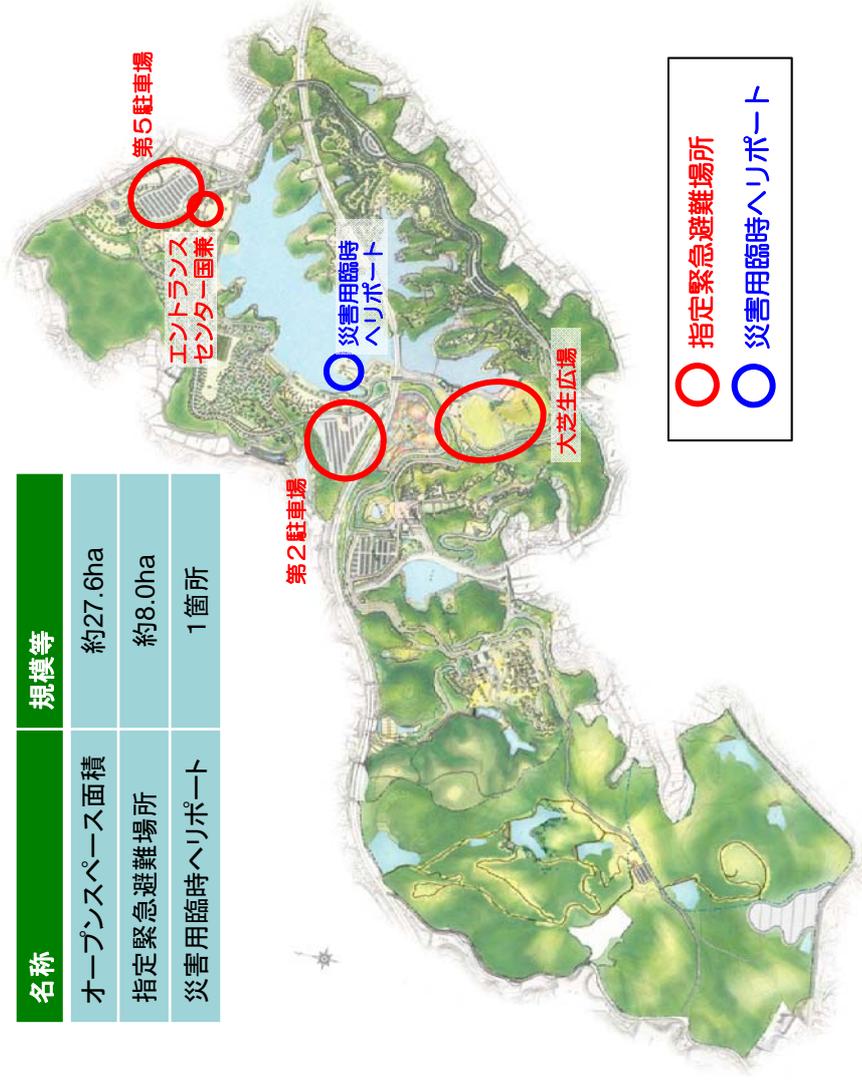


オイルエンジン設置



本公園で実施された庄原市
総合防災訓練
(H24.11、H26.2)
庄原市、市消防団、消防署、
警察署、地元住民、
赤十字奉仕団、
本公園(国・センター)等

地元住民・市合同の指定緊急
避難場所避難訓練 (H26.2.7)



5. 事業効果の発現状況 (7) その他

①公園モニター制度による公園サービス向上

○本公園では、**公園モニター制度**を導入している。モニターの方には、年間を通して4回程度来園していただき、公園に対する意見や要望を伺い、**モニターの方からの意見を公園運営に反映**することで、公園サービスの向上を図っている。

●びほく公園モニター

より快適な公園サービスのためのニーズ把握のために実施。
H28年度は「子育て世代の方」及び「日本在住の外国出身の方」を対象に9月に募集。約2週間の応募期間で35組の応募があり、15組を選定。モニター期間は平成28年10月1日から1年間。

今期の公園モニター

| 地域別 | |
|-------|-----|
| 庄原市 | 4名 |
| 三次市 | 1名 |
| 広島市 | 2名 |
| 福山市 | 2名 |
| 県内その他 | 3名 |
| 岡山県 | 2名 |
| 島根県 | 1名 |
| 計 | 15名 |

| 性別 | |
|----|-----|
| 男性 | 3名 |
| 女性 | 12名 |

| 年齢 | |
|-----|-----|
| 30代 | 11名 |
| 40代 | 4名 |

| 家族人数 | |
|------|-----|
| 2人 | 2組 |
| 3人 | 1組 |
| 4人 | 10組 |
| 5人 | 1組 |
| 6人 | 1組 |

認定授与式の状況

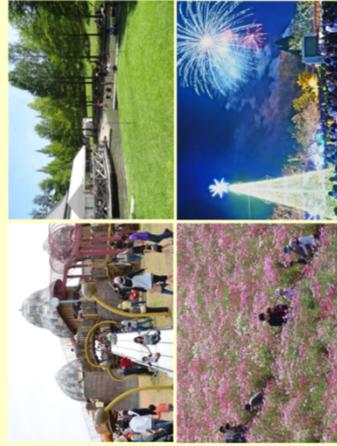


記念撮影

「びほく公園モニター」

募集中

特典
モニターの方は、**施設全員の入園無料**
1年間無料(駐車料は別途)



国営備北丘陵公園

6. 事業実施による環境の変化 事業実施による動植物の生育、生息環境等への効果・影響

- 整備に伴う環境変化があったものの、水辺をはじめとする特徴的な自然環境は残されており、その影響は小さい。
- 公園事業により、鳥類を始めとした動物類が安心して生息できる環境が創出された。
- 希少植物等については、整備と並行して、保全、再生の取り組みが適切に行われている。



オシドリ



複雑に入り組む国兼池の湖岸は、野鳥の隠れ家として機能



オオムラサキ

園内の特徴的な環境である水辺環境が残され、開園当初から継続して多くの鳥類が生息

公園整備により、希少動植物が乱獲、盗掘から守られ、安心して生育・生息できる環境を創出

有識者からのご意見（庄原市文化財保護審議会 会長 伊藤之敏先生）

- ・公園ができたことで、鳥に安全な場所が確保された。今後水鳥が増えれば、それを狙うタカもくるのではないかと。花畑も、ツグミなどが利用しており、野鳥の生息に一役買っている。総合的に見て、公園は整備されてよかったと思う。

7. 完了後の事後評価（原案）

1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因

- ①事業時期：事業採択年度 昭和57年 事業終了年度 平成24年度
- ②総事業費：614億円
- ③利用状況：522,506人（平成27年度）
- ④H20再評価時点からの要因の変化：
 - ・誘致圏内の人口や世帯数が減少したが、周辺の高速度道路整備に伴う移動時間・費用の変
化等により、利用者圏域は拡大している（便益算定上は、圏域拡大を考慮していない）。

2) 事業の効果の発現状況

- ①防災に関する機能
 - ・園内に災害用臨時ヘリポートを設置し、地域住民の方の安全確保を推進している。
 - ・平成24年10月に庄原市地域防災計画において指定緊急避難場所に位置付けられた。
- ②観光振興等地域活性化に関する機能
 - ・地形、立地を活かしたイルミネーションにより、低調な冬季の地域観光を促進している。
 - ・本公園の管理運営において、地域に継続的な雇用機会を提供している。
- ③都市環境の改善、自然との共生に関する価値
 - ・豊かな自然環境を活かした公園づくりを展開し、多様なレクリエーションを提供している。
 - ・多様な動植物が生息・生育できるような自然環境の保全、復原を継続的に実施している。
- ④歴史や地域文化の伝承に関する価値
 - ・地域の伝統や文化に関する体験プログラムの展開するなど、地域の歴史・文化の伝承に貢
献している。

7. 完了後の事後評価（原案）

3) 事業実施による環境の変化

- ・整備に伴う環境変化があったものの、水辺をはじめとする特徴的な自然環境は残されており、その影響は小さい。
- ・公園事業により、鳥類を始めとした動物類が安心して生息できる環境が創出された。
- ・希少植物等については、整備と並行して、保全、再生の取り組みが適切に行われている。

4) 社会経済情勢の変化

- ①利用圏域内の人口の推移等
 - ・H20年再評価以降、誘致圏内の人口が減少した。
- ②関連する他事業の進捗状況等
 - ・H20年再評価以降、周辺的高速道路等の整備が進んだ。

5) 今後の完了後の事後評価の必要性

- ・以上のことから、本公園の基本テーマ・基本理念に沿った効果が発現していることが認められ、今後の事後評価の必要性はない。

6) 改善措置の必要性

- ・今後も適切な管理運営により、引き続き利用者満足度の向上を進めることから改善措置の必要性はない。

7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・同種事業の計画・調査のあり方について、見直しの必要とする事項はない。
- ・事業評価手法の見直しの必要性はない。